

2015年1月14日

第673回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 越智 仁 三菱レイヨン株式会社 代表取締役社長）
では、本日11時より第673回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 学習まんがについて

日本化学繊維協会と一般財団法人カケンテストセンターが制作に協力した講談社発行の「まんが社会見学シリーズ 大研究！化学せんいのちから」が刊行されました。本冊子は、未来を担う子供たちに化学せんいの先端性について理解を深めてもらうことを目的とし、全国の小学校（約21,000校）および公立図書館（約3,150館）に寄贈されています。

さる12月22日、同冊子の贈呈を東京都中央区立常盤小学校にて行いました。贈呈式は小学校の全校朝会で行われ、まず、齋藤校長から学習まんがのご紹介があり、その後、化繊協会・上田副会長から化学せんいについての説明をおこない、児童代表に贈呈しました。

この他、児童たちに実際に化学せんいの面白さを体験してもらうため、炭素繊維複合材料の板と鉄の板の重さ比べや、超撥水生地の水をかけてみるなどデモンストレーションも行いました。

2. エコプロダクツ展2014への化繊協会コーナー出展について

第16回目となる「エコプロダクツ2014」が昨年12月11日（木）～13日（土）の3日間、東京ビッグサイトにて約16万人の来場者を集め、盛大に開催されました。

化繊協会コーナーでは、「未来をかえる化学せんいのチカラ」のテーマで、11回目となる展示を行いました。

環境問題に役立つ高機能・高性能繊維への関心は、一般層・ビジネス層を問わず年々高まっており、より詳しい説明を求めてくる来場者が増えていることから、前

回も好評だった「教室形式」のブースを拡充して、一日あたり7回「化学せんいおもしろ実験教室」を開催。3日間計350名程度が参加して、大変盛況でした。

この他、化繊協会コーナーでは、先端繊維素材の実験動画（サイエンスシアター）の映写、学習まんが「大研究！化学せんいのちから」の読書スペースを設置するなど、今回も多くの来場者にPRしました。

また、初日の午後には、エコプロダクツ展会場内「プレゼンテーションステージ」にて、化繊協会から「未来をかえる化学せんいのチカラ」と題する講演を行い、情報発信しました。

3. 2014年の内外の化学繊維生産動向について

2014年の世界の化学繊維生産動向について、日本化学繊維協会が各国の至近の発表値をもとに推定し、その報告を行いました。概要は以下の通りです。

2014年の世界の繊維生産は前年比3%増の8,833万トと史上最高を記録しました。化学繊維は5%増の6,096万トと過去最高となりました。内訳は合繊（オレフィン繊維を除く）が5%増の5,594万ト、セルロース繊維（アセテート・トウを除く）も同じく5%増の502万トと増加しました。一方、綿は1%減の2,608万トと減少しました。

2004～2014年の年平均伸び率で見ると、綿は横ばいであったのに対し、合繊が6%、セルロース繊維が7.4%と高い伸び率を示しました。

化学繊維の国・地域別生産は、中国が7%増の4,256万トと増加し、世界生産に占める比率も前年の68%から70%に拡大しました。その他一部を除いて概ね減少し、中国の伸びは鈍化したものの、同国への一極集中傾向が続いています。

主要品種では、ポリエステルおよびナイロンは4～5%増となったのに対し、アクリルステープルは減少しました。

4. 炭素繊維複合材料セミナーの開催について

炭素繊維協会委員会は第28回目となる複合材料セミナーを開催します。

テーマを「永続的に成長可能な世界を実現する炭素繊維」とし、環境や資源問題の課題解決に貢献できる素材として炭素繊維の誕生の歴史から今後の動向、炭素繊維複合材料の新形成技術などの紹介を行います。

また自動車、航空機への応用と展開など、炭素繊維の特徴や用途例をご紹介する興味深いテーマを設定しました。

日時：2015年2月25日（水）10：00～17：15（セミナー）

17：30～19：00（懇親会）

会場：コクヨホール（東京/品川駅港南口（東口）徒歩5分）

プログラムなど詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.carbonfiber.gr.jp/>

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 竹内・川名（03-3241-2312）

以上